越前市・福田さん工房「越前墨流し」

ノルウェー芸術家が体験

ノルウェー人の芸術家エバ・バッケスレットさん(50)が、墨流しの本場の技に触れたいと、越前市を訪れている。22日は県指定無形文化財「越前墨流し」技術保持者の福田忠雄さん(91)＝大滝町＝の工房で作業風景を見学、制作体験もした。「越前市は文化や伝統的産業が息づき、日本の宝。今回の経験を今後の芸術活動に生かしたい」と話している。

（中坪佑香）

福田さん（右）の指導で墨流しに挑戦するエバさん（中央）とアストリッドさん＝22日、越前市大滝町

和紙に独特の模様
熟練の技「美しい」

エバさんは、映像や製紙など幅広い分野の芸術に取り組んでいる。友人の紹介で6年前に墨流しを知り、材料や道具を集め制作してきた。「日本で伝統的な工房を見学したい」と在ノルウェー日本大使館に相談したところ、福田さんを紹介されたという。油彩を学び製紙にも関心がある長女のアストリッド・アーダさん(20)と初来日した。

念願の工房を訪れた2人は、福田さんの指導を受けながら水面に筆で染料を浮かべ、越前和紙に独特の模様を付けた。

エバさんは「ノルウェーでは、水に浮かんだ染料の模様をそのまま紙に写していた。扇子であおいだり息を吹きかけたりして、模様に変化をつけると初めて知った」と驚いた様子。福田さんの技術を見て「本当に美しい。お会いできて光栄」と熱心に動画や写真に収めていた。

アストリッドさんは、21日に市内で20歳の誕生日を迎えた。「越前市は歴史や文化が豊富で人も優しい。ここに来られたことがとてもうれしい誕生日プレゼント」と話していた。市内には24日まで滞在し、越前打刃物の共同工房のタケフナイフビレッジを訪れたり、自転車で寺社を巡ったりする予定。

庭木に糸張り宇宙表現

越前町・県陶芸館茶苑
陶芸家と草月流コラボ展

庭木に赤や青の糸を張り、宇宙を表現した造形作品＝22日、越前町の県陶芸館茶苑

越前焼のベテラン陶芸家中村豊さん(69)＝越前町＝と華道草月流「福井WAの会」のコラボ展「空間考　中村豊の世界VI」が22日、同町の県陶芸館茶苑で始まった。「つなぐ」をテーマに、器や花に糸を組み合わせた造形作品が茶苑を彩っている。27日まで。

和の空間を代表する茶室を使い、ハスや流木、竹など福井県を象徴する素材による表現可能性を追求しようと、毎年コラボ展を企画している。6回目の今年は糸を中心素材に据えた。福井WAの会から田中秀萌さん(68)＝越前市、木村瑶頂さん(68)＝敦賀市＝ら6人が参加。茶苑の庭も含めた全体を表現世界とし、数多くの造形を配置した。

Scanned by CamScanner